

会員の皆様、こんにちは。

2019 年も早 2 月。1 年半後には東京オリンピック・パラリンピックが控えています。しかし、さらにその 5 年後には大阪万博が日本で開催されます。国際的な大イベントが立て続けにあることは、日本人の景況感にもよい影響を与えることでしょう。本日は、万博の意味を掘り下げる投稿を頂きました。ご一読ください。

石田まさひろ政策研究会

「国際博覧会と SDG s」

■大阪万博と一言でいうけれど

「平成」という年号もあと 3 か月。「昭和は遠くなりけり」という感が深まる。高度成長期の真ただ中にあった 1970 年、「大阪万博」が開催された。その 55 年後、再び大阪に万博が戻ってくる。経済効果は 2.2 兆円、来場者は 2800 万人と予想されている。しかし「万博」の詳細を知る人は少ないのではないかと思います。

そもそも万博の正式名称をご存じだろうか。万博は国際博覧会といって、国際博覧会条約（BIE 条約）に基づいて行われる複数の国が参加する博覧会である。2025 年に大阪で開催が予定されている博覧会は、正式には「2025 年日本国際博覧会」という。略称もただの「大阪万博」ではない。1970 年の大阪万博と区別するため、「大阪・関西万博」と呼称することになった。

私たちの多くは、次回万博が日本の大阪で開催されることが決定したとき、「これで東京五輪後の景気後退を防ぐことができる」と、経済面について思いを巡らせたのではないだろうか（筆者もその一人なのだ）。



■万博の目的

しかし、国際博覧会条約第一条には定義として、崇高な目的が掲げられているのである。曰く、

「博覧会とは、名称のいかんを問わず、公衆の教育を主たる目的とする催しであ

って、文明の必要とするものに応ずるために(中略)将来の展望を示すものをいう。」

もちろん一般の参加者はお祭り騒ぎのように思ってチケットを買いパビリオンを訪れるのだが、知らず知らずのうちに教育的効果を浴びているというわけなのである。1970年の大阪万博で、アポロ11号が持ち帰った「月の石」を長い行列の末に見た方もあろう。これに興味をそそられていかに多くの少年少女が天文学や宇宙工学に興味を持ったことか・・・。

実際、2025年の「大阪・関西万博」のホームページから、開催目的を抜粋してみよう。

「大阪・関西万博は、2015年9月に国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、持続可能な開発目標として17の目標を掲げたSDGsが達成された社会をめざす為に開催いたします。」

とある。

■国連のSDGs 達成のために

近年、特に政策策定の場面で、「SDGs」というワードを耳にすることが多い。国連が持続可能な世界を実現するため定めた「17のゴール・169のターゲット」から構成される「国際目標」である。これらのターゲット目標を達成する期間は2016年から2030年までとしている。「へー、国際目標というものがあるんだ」と驚かれた方がいるかもしれない。国連は、より世界を実現するために中期的に国際目標を定めている。

SDGsの前には、「MDGs (Millennium Development Goals: ミレニアム開発目標)」が宣言されていた。これは2000年9月にニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットで採択されたもので、「極度の貧困と飢餓の撲滅」など、2015年までに達成すべき8つの目標を掲げていた。SDGsはこれに続く国際目標であって、ゴールは17と倍増し、そこに至るターゲットも169と個別具体的に定められている。持続可能な世界をつくるとは、国際社会の重要な一員としての我が国の使命でもある。従って、国内政策においても国連のSDGsに沿った形がしばしば採用されるし、大阪・関西万博でも目標とされているのである。

国際目標に準拠する催しだと知ると、2025年の待ち遠しさもひとしおに思えてくるのではないだろうか。



ペンネーム：大食漢